

これから関高校生徒会執行部によるプレゼンテーションを始めます。

「日出づるまち 関市」、つまりは未来が明るい関市、となるために、これからどういったまちづくりをしていくべきか、ということをご提案していきます。

関市の特徴を説明しますと、

まず、日本有数の美しい川である長良川、そして、板取、上之保方面には豊かな山という自然の財産があります。

文化の面では、昔から伝わる「刃物」の製造、伝統ある小瀬鵜飼などがあります。

場所は岐阜県、また本州の真ん中に当たり、名古屋からは40キロの場所にあります。隣接する市には岐阜市、美濃加茂市、各務原市、美濃市などがありますが、市の南部にある山のせいで交通の便は非常に悪く、「陸の孤島」という異名がついています。

しかし、2005年に洞戸村、板取村、上之保村、武儀郡、と合併し、面積は約3倍になりました。

それでは、関市の現状にまいります。こちらのグラフにあるように、人口増加率は年々減少しています。1980年では7%人口が増加していたのに対し、2005年では1%以下にまで落ち込みました。今はかろうじて増加していますが、この先は減少していくことが予想されます。

また、このグラフからわかるように、年少人口は減少し続ける一方、高齢者人口は増加し続け、確実に少子高齢化が進行していることがうかがえます。

若手が減っていく事によって活気は失われるので、少子高齢化は切実な問題であるといえます。

しかし、問題はこれだけではなく、さきほど述べたように、「陸の孤島」といわれるほどの交通の便の悪さもあげられます。まず、鉄道が長良川鉄道しかなく、料金が割には本数も少なく、遅いので便利な交通手段とは言えません。また、市役所を中心に各地を巡るバスも一日2本しかないところもあり、都合が合わないことも多いです。また、南側へ行く道路は少ないので、渋滞することも多いです。

また、知名度が低いことも問題で、観光客による発展が見込めません。その理由としては、これといった名物がないことです。また、私たち若者の視線で見れば、アピールはまだまだ足りないように思えます。

そこで私たちは、2つの観点に絞って関市が発展する手段を提案したいと思います。まずは定住人口の増加です。定住人口が増えれば、それにとまっていろいろな面から発展が促進されます。そのためには、住みたいまちづくり、住んでみたいまちづくり、また、そのための魅力というものが重要です。

次に、観光客の増加です。観光客の増加も、いろいろなメリットがあります。

観光客を増やすためには、行ってみたいまちを作ることが重要になってきます。

このためにやるべきこととしていくつか提案したいと思います。

住みやすいまちを作るために、まず必要なことは交通網の整備です。一つ目は、シャトルトレインの新設です。シャトルトレインとは、途中駅をはさみず、関市と交通の要所をダイレクトにつなぐ電車のことです。一案としては、バスが集まる関市役所付近から、鵜沼までの線路があるとよいかと思います。私たちが今名古屋に出にくいということは逆に名古屋方面からこちらに来にくいということで、関市の認識は低いと考えられます。行き来が便利になることで名古屋圏のベッドタウンとなることができます。さらに、知名度が向上することも見込めます。

二つ目に、バスの本数の増設です。バスを小型化するなどしてコストを削減し、その分、バスの本数を増やして、板取・洞戸方面、武儀・上之保方面へのアクセスをよくすることで、居住可能地域を最大限に利用することができます。大型タクシーやワゴン車のサイズでも、十分だと思います。

そして、子どもを大切に、老人に優しくすることは、住みやすいまちになるための必須条件です。

医療・介護施設の充実については、中濃病院を拠点として、板取、上之保方面に出張病院を作る、つまり中濃総合病院の医師の一部を週に何回か送ることで、医療サービスの低下を食い止めることができます。現在は数が少なくなっている小児科を増やしたりすることでも、すぐそばに病院があるという安心感が得られ、居住者が住みたいと思えるようなまちになると思います。

また、市民の税金利用については、予算の一部でいいので市民の意見が直接反映される枠を作ると良いかと思います。この枠は、市民がインターネットや投書を使って出した意見の中からその使い道を選ぶ、という枠です。例えば、小さなことですが、私たちが小学校、中学校のときに使用していた机、いすはとて古く、プリントを書いていると穴が開いてしまうこともよくありました。一日6時間も勉強するので、もう少し良い環境だといいな～と感じていました。このような学校で生徒が感じている生の声を反映してほしいと思います。老人や小さな子どもをもつ親、小中学生の保護者など、いろいろな立場からの意見を取り入れることで住みやすいまちづくりにつながるのではないかと思います。

それでは、「私たちが求める関市」の姿の2つ目である行ってみたいまちづくりの考察に入ります。

行ってみたいまちを作るために、2つ提案をします。1つ目は「人を引き寄せるテーマパークの設立」、2つ目は「ツアーの企画」です。これによって、観光

客の増加を狙います。

では、観光客の増加によるメリットについて説明します。まず、関市を訪れる人が増えると、交通手段、食事などによる需要が生まれます。需要が生まれることで、それを利用したビジネスが発展し、周辺産業を発達させることになります。このようにして、観光客が増えることで、徐々にまちも発展していくことがわかります。

それでは「観光客を増やすための提案」の1つ目である「テーマパークの設立」について説明します。関市には長良川を筆頭に、豊かな水の財産があります。ですから、水を中心に据えた事業を考えるとよいと思います。そして、複合型施設を推奨します。関市にはいろいろな施設がありますが、残念ながら1か所にまとまっていません。新たな名所を作ると同時にそういった点在している施設を1か所に集めることで相乗効果が生まれ、より価値のあるテーマパークになるのではないかと思います。

しかし、アクセスの良い場所になれば人は集まりません。具体的には、高速道路のインターチェンジ付近やサービスエリアから徒歩で行くことができる場所が挙げられます。

「観光客を増やすための提案」の2つ目である「ツアーの企画」では、関市の魅力が伝わり、もう一度来てみたいと思えるツアーや、自然の豊かさや特産である刃物など、関市の特色を生かしたツアーであると良いです。

具体案として1つ目は、本町通りを刀が似合う趣のある町に改装し、関市内を袴姿で帯刀しながら散策してもらうことです。帯刀することにより雰囲気からも関市の魅力を味わって貰うことが狙いです。

2つ目は、刃物づくり体験ができるコーナーの設置です。実際に関市の伝統に触れてもらうことで、より身近に感じてもらえると思います。爪切りの組み立てや、日本刀づくりの一部を体験するなど、いろいろな方法で、刃物に生産段階から興味をもってもらうことができます。

3つ目は、川でのアウトドア実施です。これは、板取・洞戸、武儀・上之保地方を活性化することができます。川の上流では、シャワークライミングや激流下り、さらにはその周辺の自然を利用して、昆虫採集など、山にも触れることができます。川の中流では川下りなどを行うこともでき、川や山という自然財産を有効利用することが大切だと思います。

しかし、これら「テーマパークの設立」や「ツアーの企画」には問題点もあ

ります。

まず、莫大なコストがかかります。これについては、民間団体との共同開発も視野に入れたり、市民から寄付金を得たりすることもひとつの手段です。

もう一つは、開発にともなう環境破壊です。今、どの地域でも環境破壊が問題になっていますが、関市も例外ではありません。まず、観光地になるということは、当然ゴミの量も多くなります。ですから、徹底的にゴミ捨ての管理をしなくてはなりません。ゴミ捨てに関する意識の啓発、場合によっては回収活動に力を入れなくてはならないかもしれません。

また、テーマパークを作る際にも、やはり環境への配慮が必要です。そして、環境汚染が最も響くのは市民であるので、市民自ら環境を壊していないかということも監視していくことも重要です。

最後になりましたが、関市のゆるきやら「関\*はもみん」の頭の刃物は未来を切り開き、しっぽは、これから成長する新芽を表しています。「関\*はもみん」に込められた願いのように、これからの関市が発展していき、「日出づるまち関市」となることを期待しています。

これで関高校生徒会執行部によるプレゼンテーションを終わります。